

町内企業を訪問

旭硝子株式会社愛知工場

武豊町発展のために貢献している町内企業の事業内容を、町議会として知る必要があると考え、町内企業の視察を行っています。

今回は、1月26日に旭硝子株式会社愛知工場を訪問し視察を行いました。

工場の概要は、敷地面積は約60万㎡、従業員数は約1100人、1970年に板ガラスと自動車用ガラスの生産を開始しました。

現在では、世界最大規模の自動車用ガラス工場となっております。

研修は、本事務所にて歓迎のあいさつを受け、工場全体の工程をDVD映像で説明を受けた後に、製造現場を案内していただきました。

自動車用合わせガラスの製造工程は、フロート法という製法で、調合された原料投入から溶解炉〜フロート

トバス〜徐冷〜検査された板ガラスを、自動車サイズごとの合わせガラスに加工する工程に進みました。

この工程も自動で行われており、オートクレープという圧着機で仕上げていました。

ガラスという素材を、原料投入から製品化するまで、ほぼ全体が自動化されていることに技術の進歩のすごさを感じた研修でした。



■会議室での説明風景

中部電力武豊火力発電所5号機の新設を見据え

中部電力西名古屋火力発電所

2月8日、議員・職員で中部電力西名古屋火力発電所を視察しました。

これは、武豊町でも中部電力武豊火力発電所の石炭火力発電所が新設されるのに伴っての視察です。

本町では、リブレースとあって、今まであった既設の2〜4号機を廃止・撤去および廃止済みの1号機を撤去し、その後に新たな石炭を燃料とする高効率石炭火力を新設するものです。

西名古屋火力発電所は、液化天然ガスを燃料とする

ものです。ここでは、古い施設を取り壊しながら、新しい設備を建設していく方法です。

平成29年・30年の運転開始を目指して建設真っ最中でした。

今までの火力発電所の煙突は、石油(重油、原油など)燃焼のため、SOx(硫酸化合物)やNOx(窒素酸化物)の大気汚染対策で200mもありましたが、天然ガスは、その心配がないので80mだそうです。



■西名古屋火力発電所の建設風景



■現在60mの煙突